

足立区立千寿桜堤中学校

1 学校教育目標

- 自ら考え、自ら学ぶ人 ○ 感性あふれる、心豊かな人 ○ 心身を鍛え、たくましく生きる人

○学校像	○ 生徒一人一人の可能性を伸ばせる学校	○ 地域・保護者・生徒から信頼される学校
○児童・生徒像	○ 勤勉な生徒 ○ ルールを守り礼儀正しい生徒	○ 他者を思いやる人 ○ 夢を育む人
○教師像	○ 教職としての専門性を高める教師 ○ 自他の人間性を高める教師	○ 組織で教育を実践する教師

＜学校の現状＞	
◎学校について	〔よさ〕 千寿桜堤中学校としての伝統が日々の活力と充実感の源となっている。 〔課題〕 新学習指導要領全面実施を踏まえた学校経営方針の具現化に向けた教職員の組織的実行力の向上。
◎生徒について	〔よさ〕 素直で明るく誠実、授業は真剣に取り組む。特別活動・部活動にも意欲的に活動している。 〔課題〕 自ら課題を設定し、解決していこうとする力を向上させることが課題である。
◎教師について	〔よさ〕 教員一人一人が誠実に勤務し、研鑽に努め、個々の授業力向上を図っている。 〔課題〕 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、指導と評価の一体化のための評価体制の確立。
◎保護者・地域について	〔よさ〕 生徒の教育に関心があり熱心である。 〔課題〕 ＰＴＡのサポーター制度を発展させ、広範な通学地域である保護者をまとめ具体的な活動の充実。

＜前年度の成果と課題＞

成果・コロナ禍の中、生徒は我慢と不便を重ねながらも新しい生活習慣を定着させ、落ち着いた生活習慣と学習に向けた取組ができた。

- ・実際のオリンピック・パラリンピックのプロジェクトをとおり、オリンピック・パラリンピック教育の集大成を図ることができた。
- ・ICT教育モデル校として、オンライン授業やタブレット等のICT機器を活用した授業を実践し、生徒の学習意欲を高めることができた。

課題・主体的・対話的で深い学びの視点に基づいた授業を実現させ、今後求められる確かな学力の定着を図る。

- ・ICT教育をさらに推進し、GIGAスクール構想の実現を目指す。
- ・生徒の自律心を育成し、生徒が主体的に学校生活を充実させることができるようにする。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプランによる確かな学力の定着と学びに向かう力の育成	○	○	○	○	○
2	自律心（自己指導力）に基づいた規範意識の高揚と課題解決能力の育成		○	○	○	
3	道徳教育、特別活動、部活動等を通した豊かな人間性の育成			○	○	

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－ 1		学力向上アクションプランによる確かな学力の定着と学びに向かう力の育成							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
・学力向上アクションプランの実践を通して、各種学力調査等に対応できる確かな学力を定着させる。		令和4年度区学力調査通過率 各学年・各教科前年度以上 平均正答率・前年度以上 年度末到達度調査 平均正答率・前年度以上		通過率(数字は学年/率単位%) 国語 1 79.0 2 86.6 3 64.1 数学 1 82.6 2 81.5 3 69.9 英語 1 79.6 2 81.5 3 68.0 平均正答率 国語 1 76.6 2 79.0 3 74.1 数学 1 73.2 2 67.7 3 57.1 英語 1 88.7 2 64.5 3 68.2 年度末到達度調査 国語 1 78.0 2 79.0 数学 1 63.0 2 57.0 英語 1 56.0 2 76.0		区の目標値は 1 年生の英語以外は大きく上回っているが、全体的に前年度に比べて通過率、正答率ともに微減している。年度末の到達度調査では国語の正答率は良好であるが1年生の英語、2年生の数学の正答率がやや低い、確かな学力定着に至っていない生徒への授業や補充学習での学力の保障が課題である。		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	I C T 機器の活用による学習の個別最適化と学力向上	生徒 全教科	通年	AIドリルやeライブラリー等を活用して生徒が自分のペースで学習できるようにし、生徒一人一人の学力と学びに向かう力の向上を図る。	生徒授業アンケート 教員自己評価	関連項目 1 0 0 % 1 0 0 %	生徒 94.7% 教員 83.0%	情報教育推進拠点校としてI C T機器を積極的に活用できた。個別最適化の研究を進め、生徒に還元することが課題。	◎
2 継続	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	教員 全教科	通年	教員は単元や授業の目標を明確にし、身に付いた学力を生徒が自覚できる授業へと改善し、確かな学力の定着と主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。	生徒授業アンケート 教員自己評価	関連項目 1 0 0 % 1 0 0 %	生徒 92.5% 教員 96%	教員の意識は高まり、生徒からの評価も高く、授業改善を着実に図ることができた。教員、生徒ともに一層の充実が課題。	◎

3 継続	学習コンテストや単元テストによる学力定着と学力補充	生徒 5教科	5教科 年間2回以上	適宜、学習コンテストや単元テストを行い、生徒の学力の定着度を測り、つまづきを把握し、補充学習をとおして学力の定着を図る。	学習コンテスト、 単元テスト、 到達度調査	生徒全員が合格点クリア	生徒 84.7% 教員 88.0%	学習コンテスト、単元テスト共に適宜実施し、学力定着を図ることができた。不合格者をゼロにすることが課題。	○
4 継続	イングリッシュフライデー、校外学習を活用した英語力の向上	生徒 英語科他	毎週金曜日給食時	毎週金曜日の昼の放送を英語で行い、聞き取る力や話す力を伸ばすとともに、英語への関心やコミュニケーションの楽しさを味わう。	生徒意識調査等 英語への関心	関連項目 100%	生徒意識調査 関連項目なし 教員 75.0%	イングリッシュフライデー、校外学習(TGG)とともに予定通り実施、生徒の意識や関心をより高めることが課題。	△
5 継続	体験学習をとおして生活に生きて働く学力の定着	特別活動 総合的な学習の時間 他	年間適宜	体験学習をとおして各教科や道徳の授業、総合的な学習の時間、特別活動等で学んだことを活かし、生きて働く学力の定着を図る。	体験学習事前 事後学習等 生徒意識調査等	体験学習関連項目 100%	生徒事後アンケート等 全90%以上 教員 96%	1年生、2年生共に特色ある体験学習ができた。生徒たちの自覚や意識を高めることが課題。	○
6 新規	家庭学習による主体的に学習に取り組む態度の育成	全教科	毎日	生徒が自ら課題を設定し、粘り強く取り組める家庭学習の習慣を定着させ、主体的に学習に取り組む態度を育てる。	家庭学習ノート 生徒意識調査等	家庭学習関連項目 100%	生徒意識調査 関連項目なし 教員 88.0%	教員は適切な課題を提示し、生徒たちは家庭学習によく取り組んでいる。指導の個別化、学習の個性化の一層の充実が課題。	○

重点的な取組事項－２		自律心（自己指導力）に基づいた規範意識の高揚と課題解決能力の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
様々な教育活動において自らの目標や課題を明確にし、自律心（自己指導力）による規範意識の高揚と課題を解決する能力を育成する。		生徒評価肯定回答 100% 保護者評価肯定回答 100% 教員評価肯定回答 100%	生徒 85.3% 保護者 77.9% （自尊感情、自己肯定感項目） 教員 96.0%	全ての教育活動に目標をもち、自分や自分たちの課題を解決していた。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
規範意識や帰属意識の高揚によるよりよい学校生活の構築	生徒、保護者アンケート 学校生活満足度 肯定回答 100% 教員評価関連項目 肯定回答 100%	学校生活のきまりやルールを生徒に自らの課題として捉えさせ、大人たちとともに検討し、帰属意識や規範意識を高めるとともに学校生活の充実を図る。	生徒（関連項目平均）89.2% 保護者（関連項目平均）84.7% 教員 92.0%	校則について生徒たちが考え、改善案を提案でき、規範意識や帰属意識は高まった。今後も継続していくことが課題。	○
特別活動等をととした自律心の育成と規範意識の高揚による課題解決能力の向上	生徒、保護者アンケート 特別活動関連項目 肯定回答 100% 教員評価委関連項目 肯定回答 100%	学級活動や学年活動、生徒会活動、学校行事、部活動等において常に個人や集団の目標をもたせ、目標達成を目指すことで主体的に課題解決できる力を育てる	生徒（関連項目平均）88.0% 保護者（関連項目平均）80.9% 教員 100%	常に個人や集団の目標をもち、特別活動に取り組み、主体的な課題解決能力を高めた。継続、さらなる向上が課題。	○
主体的なキャリア教育をととした規範意識の高揚と自己実現に向けた課題解決能力の育成	生徒、保護者アンケート キャリア教育関連項目 肯定回答 100% 教員評価関連項目 肯定回答 100%	自己理解と自己分析から自己実現に向けた進路指導を実践し、学校の意義や目的の理解や将来の夢や目標をもたせ学校生活への全員参加を目指す。	生徒（進路学習項目）92.4% 保護者（進路指導項目）82.5% 教員 92.0%	1, 2 年生は特色あるキャリア教育活動を実践することができた。自己実現に向けて経験を生かすことが課題。	○
配慮を要する生徒への個に応じた課題解決能力の育成と安心した学校生活の保障	生徒、保護者アンケート 特別支援教育関連項目 肯定回答 100% 教員評価関連項目 肯定回答 100%	週に1回校内委員会を開催し、SC、外部機関との連携を密にし、配慮を要する生徒には個々の目標をもたせ、個に応じた指導を展開し、安心した学校生活を保障する。	生徒（教育相談項目）79.3% 保護者（教育相談項目）81.9% 教員 100%	校内委員会を毎週行い教員同士や関係機関との連携は図れた。生徒が自ら相談しやすい環境を整備し、全員に安心した学校生活を保障することが課題	△

重点的な取組事項－３		道徳教育、特別活動、部活動等をととした豊かな人間性の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
道徳教育、学級活動、生徒会活動、学校行事、部活動などをととして個々の感性を磨き、向上心や他者を思いやり、協力しようとする心を育てる		生徒評価肯定回答 100% 教員評価肯定回答 100%	生徒 91.5% 教員 95.0%	各活動を通して、感性を磨き、向上心、思いやりの心、協力する気持ちを育成できた。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
道徳教育をととした豊かな人間性の育成	生徒、保護者アンケート 道徳教育関連項目 肯定回答 100% 教員評価関連項目 肯定回答 100%	授業をはじめすべての道徳教育をととして、内容項目の理解を図り、「考え議論する道徳」を実践することでよりよい生き方を考え、感性を磨き、他者を思いやる心を育てる	生徒（思いやり） 94.3% 保護者 関連項目なし 教員 92.0%	発問や振り返りを工夫することでよりよい生き方を考える道徳教育を実践できた。実施回数を増やし、さらなる育成が課題。	○
学級活動による自己有用感の育成と他者への思いやりの心の育成	生徒、保護者アンケート 学級活動 肯定回答 100% 教員評価関連項目 肯定回答 100%	学級活動や Q-U を活用して帰属意識を高めたり班活動などをととして自己有用感や他者と協力したりする心を育成し、学級を安心して過ごせる場とする	生徒（自己有用感、思いやり平均） 91.5% 保護者 関連項目なし 教員 92.0%	生徒会活動、班活動をととして自己有用感や思いやりの心を育てることができた。安心できる学級作りのさらなる推進が課題。	○
特別活動による社会貢献意識の向上	生徒、保護者アンケート 特別活動 肯定回答 100% 教員評価関連項目 肯定回答 100%	生徒会活動や学年行事、学校行事をととして仲間と協力しようとする心や社会に貢献しようとする態度を育てる	生徒（社会貢献） 88.7% 保護者 関連項目なし 教員 100%	委員会活動、係活動、行事、地域との連携事業をととして社会に貢献しようとする態度を育てることができた。継続することが課題。	○
部活動等をととした帰属意識や礼儀、マナー、他者を思いやる心の育成	生徒、保護者アンケート 学校生活満足度 肯定回答 100% 教員評価関連項目 肯定回答 100%	部活動をととして、礼儀やマナーを身に付け、帰属意識を高めるとともに仲間と協力し、他者を思いやる心を育てる	生徒（あいさつ、礼儀） 94.3% 保護者（ルール、マナー） 87.8% 教員 96.0%	生徒会、部活動を中心にあいさつを励行することができた。全校生徒が自然にあいさつできるようになることが課題。	○

6 まとめ

1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 区学力調査についての課題と対策

【課題】国語は「言語・情報・言語文化」「読み取った情報を基に考え、判断し、表現する力」について一部、数学は学年が上がるにつれて、問題の難易度が上がり様々な単元で、英語は「読むこと」「書くこと」において未定着の生徒が見られる。補充学習などで学力の定着を図ることが課題である。

【対策】国語の授業では、考えていることをほかの人にわかりやすく表現する場（グループ発表など）を多く設定し、活用力の定着を、数学では習熟度別少人数学級指導（2学級3展開）を実施することで未定着の生徒をつくらないことで、英語ではスپرリングコンテストや単元ごとの小テストを実施することで学力の定着を図り、A L Tとの会話を重視した授業や英会話を重視したグループ学習などで英語になじませる。

- ・補習学習では、A Iドリルを活用し、基礎学力の定着を図るとともに各教科のコンテストや単元ごとの小テストを実施し、定着を図る。
- ・個別指導では、授業中の形成的評価の活用や習熟度に合わせた課題への取組などの指導の個別化を通して確かな学力の定着を図る。

イ 全体的な今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

＜成果＞学校経営方針に「誰一人取り残さない確かな学力の定着と豊かな人間性の育成」を掲げ、学力向上アクションプランをはじめ具体的な取組を実践した。各達成基準は「誰一人取り残さない」を掲げた以上100%が適切であると判断した。

生徒たちは日本一の授業を目指して授業に真剣に取り組む、補充学習や家庭学習を充実させ、学校生活や行事では「できることをできる限り」と自律心を持ち、自分たちの力で校則の改善や特別活動を充実させていた。目標である「確かな学力の定着、自律心に基づいた規範意識と課題解決能力、豊かな人間性」の育成を生徒たちの主体的な取組により概ね図ることができた。

＜課題及び解決の方向性＞「誰一人取り残さない」というSDGsの目標を掲げている。生徒全員が充実した学校生活を送り、保護者全員から「本校に入学させて良かった」といってもらえるようにすることが課題である。生徒たちが抱える悩みや困り感を早期発見、早期解決しながら生徒全員が本校での学校生活を楽しく思い、意欲的に登校できるようにし、保護者の皆様、地域の皆様からの信頼も高めていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

今年度は、「感染症対策」を徹底しながらできる限りの教育活動を進めてまいりました。生徒たちは伝統の「さく中秋」と自分たちの「さく中秋」を発揮して、自信と誇り、そして品位をもって学校生活を送っていました。意欲的に取り組む授業態度や定期考査に臨む姿勢、特別活動や部活動などに仲間と皆で協力しながら全力で取り組む姿は大変立派で千寿桜堤中学校をより良い学校へと成長させてくれたと確信しております。

また、お忙しい中、学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。高い評価と温かい励ましのご意見を多数頂戴いたしました。教職員にとりこれほど励みになることはありません。厳しいご意見、要望も頂戴いたしました。学校教育は80%だから合格、90%だから良いというものではないことは重々理解しております。真摯に受け止め、検討を重ね、全員にとってより良い学校となりますよう改善に努めてまいります。

保護者の皆様、地域の皆様には来校いただくことがままならず、今年度も我慢や不便をおかけすることになってしまいました。学校評価アンケートの中にも参観ができないため評価できない項目があったり、「わからない」という回答が多かったりと本校について説明不足、公開不足を痛感しております。心よりお詫び申し上げます。

そうした学校の状況をご理解いただき、ご協力賜りましたことに心より感謝申し上げます。来年度こそは生徒たちの活動や元気な姿を保護者の皆様、地域の皆様に数多くご覧いただき、安心していただくとともに、本校の教育活動に直接関わり、その場でご意見を頂戴するなど学校、生徒、保護者一体となってより良い学校を築いていきたいと考えております。

また、地域の行事等にも生徒たちを積極的に参加させ、学校とは違った経験をとおして成長してほしいと考えております。今後とも変わらぬご理解、ご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

本校の教育活動全般については感染症対策を徹底しながら、授業や特別活動（学級活動、生徒会活動、行事等）を予定通り行うことができた。それは生徒、教職員が一体となって知恵を絞りながらできることをできる限り行ったこと、そうした活動への保護者の皆様、地域の皆様の協力があればこそその成果であったと認識している。

学校評価アンケートでも上記の達成度から考えるとおおむね良好であったと判断しているが、100%ではない。生徒や保護者の自由意見の中には学習面、生活面共に「もう少し優しい方が良い」「もう少し厳しい方が良い」など、両方面の意見があがってきた。学習面や生活面で多様な生徒が存在するため、どこに基準を合わせるかというバランスのとり方が難しい公立中学校の教育活動にとってこうした数値や意見の違いは、一方向に偏るよりはむしろよかったのではないかと考えている。こうした意見を生徒や保護者と共に調整しながら、「全員の生徒が安心して学習や生活に取り組める学校」を目指し、今後も学習や生活の基準を定め、より良い学校へと進化させていく。

また、コロナ禍という困難な状況であるからこそ生徒たちは、我慢や不便の中でも何ができるかを常に自分や仲間と考え判断し、行動できる力を身に付けながら当たり前のことが当たり前にできることや周囲の仲間、支援してくれる方々への感謝の気持ちが育っていたように感じる。

私自身も学校教育で学ぶことの大切さ、責任の重さを改めて感じる１年となった。すべての教育活動に生徒たちが真剣にかつ楽しく取り組めるように教職員全員で改善を図り、自校の教育力を高め、生徒たちの豊かな成長と明るい未来につなげていく所存である。